自己スキーマと対人印象形成との関連について

－相互独立的－相互協調的自己観の観点から－

大下知世*・沖林洋平

Relation Between Self-schema and Forming Impression of Others
-Independent and Interdependent Construal of Self-

OSHITA Tomoyo, OKIBAYASHI Yohei

(Received September 28, 2012)

多くの研究で他者認知の際に自己についての情報である自己スキーマが影響すると言われていることに関して，本研究では北山（1994）による相互独立的自己観と相互協調的自己観という異なる性質の２つの自己観を含む，文化的自己観と呼ばれる自己スキーマに注目した。日本の大学生が持つ文化的自己観が，それぞれの自己スキーマを持つ刺激人物に対して抱く印象にどのように影響するのか，池上・大塚（1997）が行った研究の枠組を基に実験を行い，文化的自己観と対人印象形成との関連について考察を行った。

Past study investigated self-schema what is information about self influenced to have impression to others. Kitayama (1994) suggested independent and interdependent construal of self, this study gave attention to his self-schema. The purpose of this study was to consider how Japanese university students' self-schema had influenced to have impression to person had the self-schema.

１．問題と目的

Markus（1977）によれば,自己スキーマとは自己についての構造化された知識であり，個人の社会的経験の中で自己に関係した情報を体制化したり,解釈したりする働きを持つとされる。北山（1994）は，ある文化において歴史的に共有されている自己についての前提を文化的自己観と呼んでいる。また，文化的自己観はそれぞれの文化の歴史の中で育まれ，習慣，言語の用法，ルーティン化された社会的状況や行為，社会制度など文化そのものの性質を規定し，日常にある社会的現実を構成しており,それぞれの文化の根底に流れている概念,観念,イメージ,ディスコースなどから成る混合物として存在しているとする。そして北山（1994）はMarkusらとともに，相互独立的自己観と相互協調的自己観という２つの異なる自己についての文化的モデルを提唱した。

相互独立的自己観とは西欧,特に北米中流階級の文化のように，自己とは他から切り離され

*山口大学　教育学研究科

たものという信念に基づいている。相互独立的自己観は，例えば個人の好みとそれに基づく選択を重視する習慣や，自主性を重んじる子育てをする風習，仕事の業績が賃金に反映されるメリットペイ・システム等から派生する「ライフ・タスク」に反映されている。この文化に適応し，一人前として認められるための必要条件は，自分自身の中に誇るべき才能，性格，能力などの属性を見出して表現して自己実現をはかることであるとする。

一方相互協調的自己観とは，日本を含む東洋の文化のように，自己は他と根元的に結びついているという前提に立っており,例えば他に気を遣い「もてなす」ことを重視する習慣や，迷惑をかけないことを重んじる子育てをする風習，年功序列制の社会的システム等から派生する「ライフ・タスク」に反映されている。この文化に適応し認められるための必要条件は，意味ある社会的関係に属し，その中で相応の位置をしめ，他と相互依存・協調的な関係を持続することにより，自己の社会的存在を確認し，自己実現をはかることであるとする。

北山（1994）によれば,個々人のアイデンティティはある文化で歴史的に共有されてきている自己についてのモデルを暗黙の前提として,各人それぞれ,そのモデルをより精緻化したり，反逆して部分的に否定したりすることを通じて確立されると考えられ,意識的判断，あるいは態度,価値観などから成る個人のアイデンティティは，あくまでも文化的自己観により構成された社会的現実を背景として形成されるとする。

自己についての知識は他者の認知にも影響し，自己や他者についての情報処理機能を持つとして理解されている。他人を認知する際に自己スキーマが用いられやすいことは様々な研究によって検討されている。

他者に対する知識のネットワークの中で，特定の概念が用いられる際にはその概念の活性化が高まっており，逆に活性化が高まっている概念があれば用いられやすさも増大するというように，概念の用いられやすさはアクセシビリティ（接近可能性）と呼ばれ，活性化の高まっている概念はアクセシビリティが高いとされる（北村，1998)。北村（1998）は，自分の持つ特性のうちポジティブで望ましいものを長所，ネガティブで望ましくないものを短所と規定し，自己報告で挙げられた長所と短所が他者認知でいかに用いられるか,自尊心や自己との適合度,その重要性,親密さなどとの関連の中で長所と短所のアクセシビリティを検討した。その結果,他者について記述する時，長所次元の方が短所次元よりもよく用いられること，短所次元は自尊心の低い者でより顕著であることが示されたが，ポジティブな記述とネガティブな記述の割合は自尊心とは関係がなく,単に自尊心の低い者が短所を多く持っていると自分で考えていて,それが多く用いられているのではないとしている。これらのことより，ある性質が他者認知においてよく用いられるようになる原因として，自己の認知，さらに自尊心に基づく動機的影響が１つの基盤として働いていることが示唆された。また,自己との適合度と重要性に関しては,アクセシビリティが高い記述は,自己の長所的な自己スキーマとなっていることが示唆された。また，このような自尊心を維持する傾向が親しい友人に対して顕著であり，自己評価維持モデルに合致する結果が示された。

一方で池上・大塚（1997）は，友好性と知性についての自己スキーマが望ましいものかそうでないかによって，印象形成場面での友好性と知性についての自己スキーマを持つ刺激人物への評価がどのように反映されるかを検討した。その結果,友好性について望ましくないスキーマを有すると友好性の評価が寛大になること，知性について望ましいスキーマを有すると知的な人物の知的な行動を積極的に評価する傾向にあることが示された。

これらの研究を踏まえると，他者認知の際に用いられる特定の概念の次元の違い，または

概念の次元が望もしいものであるか，そうではないかによって，その次元がどのように影響し，用いられるかが異なるのではないかと考えられる。そこで本研究では，北山（1994）がMarkusらとともに提唱した相互独立的自己観と相互協調的自己観を特定の概念として規定し，大学生が持つ自己スキーマが他者認知の際にどのように影響するのかを検討する。その際，自己スキーマの望ましさが問題になってくると考えられる。相互独立的自己観と相互協調的自己観は,住んでいる国や文化によってどちらかの自己スキーマに規定されるというものではなく，自己スキーマそのものは個々人で異なるものであるが，先に述べたとおり，日本など東洋の自己と他の結びつきを重視する考え方前提にして，習慣や風習，社会的システムなどを反映している相互協調的自己観は，日本においては多くの場合望ましいとされるものであると考えられる。これらのことより，仮説としては，相互協調的な自己スキーマを持つ日本の大学生は，相互協調的な人物の相互協調的な行動をより積極的に評価するということが考えられる。

また，研究の枠組として，北村（1998）は他者認知の際の他者について，被験者に実際に存在する人物の特徴を記述させるという方法をとっているが，本研究の場合は自己スキーマを相互独立的自己観，相互協調的自己観に限定しているため，池上・大塚（1997）らの論文の友好性,知性に関する自己スキーマの部分に相互独立的自己観,相互協調的自己観を当てはめたものを用いた。

2．方法

予備調査１

対象者　大学生85名（男性29名，女性56名）
手続き　実験で用いる文章を作成するため，相互独立的，相互協調的な自己スキーマ持つ人物を表す文章（例　自分の意見や意志を主張し，それをつき通す人）を提示し，それぞれの人物が男性の場合と女性の場合の計４人の人物を想定してもらい，人物がとると思われる行動について自由記述を求めた。行動文は全部で320文であり,テキストマイニングによって名詞,動詞,形容詞，形容動詞を抽出し，文章の中で頻繁に使用されている言葉，言葉の組み合わせが含まれている文章を番号の早い順から15文ずつ選び，相互独立的な男性と女性，相互協調的な男性と女性の行動を表す計60文の行動文を作成した。

予備調査２

対象者　大学生115名（男性48名，女性53名，不明14名）
手続き　予備調査1において作成した行動文から，相互独立的，相互協調的な自己スキーマを持つそれぞれの人物を適切に想定できるかどうかを確認し，実験に用いる行動文を抽出するため，提示した文章がそれぞれの自己スキーマを表す形容動詞（「積極的だ」,「柔軟だ」）についてどの程度当てはまると思うか，いずれも７段階（-3～+3）で評定を求め，それぞれ相互独立得点，相互協調得点とした。各得点の平均点と中央値をグラフに重ねて表したところ，男性の人物，女性の人物とも大きなばらつきが見られなかったため，実験では刺激人物は男女の区別をつけずに用いた。相互独立得点が高く(2.0以上),相互協調得点が低いまたは中程度(1.0以下)の文章を相互独立的スキーマを持つ人物，相互協調得点が高いまたは中程度（1.0以上），相互

独立得点が低い（-1.9以下）の文章を相互協調的スキーマを持つ人物を表す文として，各15文を採用した。これに相互独立，相互協調得点がともに低い（-1.9以下）の文章を中性的な人物を表す文として15文を加え，計45文を作成した。

実験

対象者　大学生89名（男性38名，女性51名）
手続き　高田（2000）による相互独立的―相互協調的自己観尺度への回答を求め，スキーマ得点が低いスキーマ低群，協調性高群，独立性高群，双方のスキーマ得点が高いスキーマ高群の４群に分類した。各スキーマ群の平均と標準偏差は表１に示す。また，予備調査で作成した行動文45文を提示して対象の行動をとる人物を想定してもらい，人物に対する印象を相互独立的，相互協調的な印象の度合を測る6尺度（積極的 － 消極的，一方的 － 相互的，絶対的 － 相対的，強い － 弱い，頑固な － 柔軟な，能動的 － 受動的），好意度を測る３尺度（嫌い － 好き，友達になりたくない－なりたい，信頼できない－できる）を用い，いずれも９段階（-4～4）での評定を求めた。

表1 各スキーマ群の平均，標準偏差

得点	スキーマ低群 (n=19)	相互協調高群 (n=21)	相互独立高群 (n=28)	スキーマ高群 (n=16)
相互独立性得点	3.754 (0.349)	3.382 (0.568)	4.572 (0.276)	4.674 (0.431)
相互協調性得点	4.289 (0.354)	5.151 (0.272)	4.244 (0.46)	5.229 (0.317)

※( )内にSDを示した。

３．結果

因子分析の結果，９尺度から３因子が抽出されたため，因子に基づいて３つの下位尺度得点を合計した印象得点を算出し，4（スキーマ群）×２（刺激人物）の２要因分散分析を行った。各スキーマ群のそれぞれの刺激人物に対する印象得点は，表２に示す。

積極的 － 消極的，強い － 弱い，能動的 － 受動的の３尺度を印象得点A，一方的-相互的，絶対的-相対的，頑固な-柔軟な，の３尺度を印象得点Bとすると，印象得点A，B，そして好意度得点において刺激人物の種類による差が有意であり，相互独立的人物と相互協調的人物の２種類の人物の相違は認知されていたことが確認された（印象得点A; $F(1,80)=909.910, p<.001$: 印象得点B; $F(1,80)=358.505, p<.001$: 好意度; $F(1,80)=11.654, p<.005$）。また，印象得点Aにおいて，スキーマ群と刺激人物の間に有意な交互作用が認められ（$F(3,80)=.0189, p<.05$）。多重比較検定の結果，相互協調的刺激人物の評定でスキーマ低群に比べ相互協調高群は，この尺度での評定値が低いという有意差が認められた（$t(160)=2.719, p<.05$）。

さらに，印象得点Bについてそれぞれの刺激人物の得点をスキーマ群間でT検定を行ったと

ころ，相互独立的人物の印象得点において，スキーマ低群と相互独立高群との群間差に有意傾向が認められた（t（2.556）,p<.05)。同様に好意度についてスキーマ群間でT検定を行ったところ，相互協調的人物の印象得点において，スキーマ低群と相互独立高群との群間差に有意傾向が認められた（t（1.748）,p<.10)。

以上より，印象得点Bにおいてはスキーマ低群と比べて相互独立高群は相互独立的人物の評定値が高く，相互独立性を表す得点が高い傾向が認められた。また，好意度においては，スキーマ低群に比べて相互独立高群は相互協調的人物の評定値が高く，ネガティブな評価（嫌い，友達になりたくない，信用できない）を表す得点が高い傾向が認められた。

表2　各スキーマ群の刺激人物に対する印象得点

印象得点	刺激人物	スキーマ群			
		スキーマ低	相互協調高	相互独立高	スキーマ高
好意度	相互独立性人物	0.081 (0.811)	-0.184 (1.018)	-0.171 (0.997)	-0.264 (0.827)
	相互協調的人物	0.095 (0.745)	0.324 (0.809)	0.512 (0.812)	0.592 (0.832)
印象得点A	相互独立性人物	1.653 (0.634)	1.923 (0.956)	2.241 (0.832)	1.356 (1.143)
	相互協調性人物	-1.105 (0.811)	-1.283 (0.934)	-1.205 (0.833)	-1.150 (0.706)
印象得点B	相互独立性人物	2.365 (0.901)	2.813 (0.911)	2.838 (0.814)	2.252 (0.835)
	相互協調性人物	-1.856 (0.783)	-2.568 (0.694)	-2.250 (0.648)	-2.000 (0.916)

4．考察

本研究で行った実験では，相互独立的な自己スキーマ得点も相互協調的な自己スキーマ得点も低いスキーマ低群，相互協調的な自己スキーマ得点が高い相互協調高群，相互独立的な自己スキーマ得点が高い相互独立高群，そして双方の自己スキーマ得点が高いスキーマ高群の4つのスキーマ群の，相互独立的な行動をする刺激人物，相互協調的な行動をする刺激人物に対する，積極的 － 消極的，強い － 弱い，能動的 － 受動的，の３尺度を含む印象得点A，一方的-相互的，絶対的-相対的，頑固な-柔軟な，の３尺度を含む印象得点B，そして好き-嫌い，友達になりたい-友達になりたくない，信頼できる-信頼できない，の３尺度を含む好意度への評定について分析を行った。その結果，印象得点Aについてはスキーマ群と刺激人物の間に有意な交互作用が認められ，相互協調的刺激人物の評定において，スキーマ低群に比べて相互協調高群は印象得点が有意に低く，より相互協調的な印象を形成したことが示された。また，印象得点Bについては，相互独立的刺激人物の評定においてスキーマ低群と相互独立高群との得点の差に有意傾向が認められ，相互独立高群は相互独立性を表す得点が高い傾向が示された。そして好意度については，相互協調的刺激人物の評定においてスキーマ低群と相互独立高群との得点の差に有意傾向が認められ，ネガティブな印象を表す得点が高い傾向が示された。

以上のように，対象の刺激人物は同じであっても評定に用いた印象の種類によってそれぞれのスキーマ群が示す印象評定値は異なっていた。一方で積極的 － 消極的，強い － 弱い，能動的 － 受動的，といった尺度においては，相互協調的な自己スキーマを持つ群は相互協調的な刺激人物に対してより相互協調的な印象を形成したが，他方で一方的-相互的，絶対的-相対的，頑固な-柔軟な，といった尺度においては，相互独立的な刺激人物に対してスキーマを持たない群より相互協調的な自己スキーマを持つ群の相互独立的な評定値が高い傾向が見られた。これは，単に仮説のように日本の文化の中で望ましい自己スキーマを持つ大学生が，望ましい自己スキーマを持つ人物の行動に対する評定が積極的になるとはいえず，自己スキーマの望ましさだけが刺激人物の印象評定に影響し，その次元へのアクセシビリティが活性化しているとはいえないことが示されたと考えられる。また，好き-嫌い，友達になりたい-友達になりたくない，信頼できる-信頼できない，といった尺度においては，相互独立的な刺激人物に対する印象評定に有意差が見られない一方で，相互協調的な刺激人物に対して，スキーマを持たない群より相互独立的な自己スキーマを持つ群がネガティブな印象を形成する可能性が示されたことは，同じ日本文化の中で生活していても人々は様々な自己スキーマを持ち，自己スキーマの違いによっては互いに抱く印象の感じ方が異なってくる可能性を示していると考えられる。

本研究においては，相互独立性自己観と相互協調性自己観という文化的自己観の観点で自己スキーマと対人印象形成との関連について検討を行ったが，自己スキーマと対人印象形成の研究においては自尊心との関連についても検討が行われ，その関連性が述べられており（北村，1998；根本，1974etc），今後は文化的自己観に加え，その自己観と自尊心との関連，さらに印象形成との関連についても検討を行っていくことが課題である。

5．参考文献

池上知子・大塚友加里（1997）：自己スキーマの望ましさの相違が印象形成過程に及ぼす影響 社会心理学研究，12(3)，172-182.

北村英哉（1998）：自己の長所,短所は他者認知によく用いられるか． 教育心理学研究，46，403-412.

北山忍（1994）：文化的自己観と心理的プロセス． 社会心理学研究，10(3)，153-167.

北山忍（2003）：自己と感情　文化心理学による問いかけ． 日本認知科学会（編） 共立出版株式会社.

高田利武（2000）：相互独立的-相互協調的自己観尺度に就いて． 奈良大学総合研究所　総合研究所報（8），145-163

根本橘尾（1974）：対人認知に及ぼすSelf-Esteemの影響（III）． 千葉大学教育学部研究紀要 第1部　23，27-38.

林文俊（1978）：対人認知構造の基本次元についての一考察． 名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科），25，233-347